

# リーディングプロジェクトの概要

作品名 | Symbiotic Landscape

実施場所 | 都立駒沢オリンピック公園  
総合運動場体育館改修工事現場

所在地 | 世田谷区駒沢公園1-1

規模 | 高さ3m × 幅約90m

掲出期間 | 令和6年4月26日から  
令和7年1月末まで(予定)

掲出方法 | 作品を印刷したシートを仮囲いに貼付



当初の工事現場状況

都立駒沢オリンピック記念公園は、1964年の東京オリンピックの第2会場としてレスリングやバレーボールなどの競技を実施。

大会終了後に公園として一般に公開され、緑と数々のスポーツ施設が調和した運動公園として親しまれています。

2025年に東京で開催されるデフリンピックでは、陸上(陸上競技場)、バレーボール(体育館)、ハンドボール(屋内球技場)の会場としても利用されます。

本事業を通じて、工事期間中に失われる公園の景観をアートによって新たな景色として彩るとともに、東京2025デフリンピックへの気運醸成や共生社会実現のメッセージ発信にも繋がっていきます。

## アーティストプロフィール

原田郁 (はらだ いく)



### 経歴

1982年 山形県生まれ

2007年 東京造形大学大学院絵画科修了

2022年 六本木アートナイト2022 出展

2023年 東京都現代美術館「MOTアニュアル2023」出展

2024年 東京都渋谷公園通りギャラリー「日常アップデート」出展予定

コンピューターの中に作りあげた仮想空間を現実のキャンバスで絵画として仕上げる作風。身近な風景を取り込みながら現実世界に仮想空間が浮き上がったような新たな景色を創り出す。



### (アーティストコメント)

作品のなかに人・群像を象徴的に表した木の形のオブジェを配置しています。色彩は東京2025デフリンピックへの期待を高めるべく、テーマカラーとなる鮮やかな赤・青・黄・緑を基調として選びました。これらの色は多様性を象徴し、様々な背景を持つ人々が共に成長する社会を表現しています。多様性を受け入れ進化する場所へ、そして駒沢オリンピック公園の自然と調和し、体育館の修理中も訪問者に愛される場所になれば幸いです。

公共空間にアートが広がることは、私たちアーティストが活動の場を得られるというだけでなく、日常生活にアートが浸透するという意味でも一人の市民として嬉しく思います。街にアートの景色を広げる「TOKYO CITY CANVAS」のこれからの展開に期待しています。